

令和6年度(2024年度) 学校評価表					学校番号	28	学校名	上田千曲高等学校(全日制)
学校重点目標		①オンラインワンの存在をめざし、生徒満足度が高く活力のある学校をつくる。						
		②総合的な専門高校として、連携や魅力的な学びを体系的に行い、進路実現につなげる。						
		③ICT機器等を利用して、授業力、教師力、学校力を高め本校教育について広く発信する。						
		④地域の教育力・人材を活用して教育の質を高めるとともに地域と連携し活性化に貢献する。						
		⑤生徒の人権を尊重し保護者と連携して、いじめや体罰の無い安全・安心な学校をつくる。						
評価対象	評価項目	評価の観点		成果と課題		評価	改善策・向上策	
学習指導	専門教育の充実	生徒の実態に即し、創意工夫のある授業を展開することができたか。		各専門科の特性を活かしながら、生徒の興味・関心を導き出すことを工夫した授業を行うことができた。		A	各専門科での創意工夫を意見交換し、共有できる場を設定したい。	
	資格取得の充実	生徒が資格取得に興味関心を示し、生徒一人ひとりが積極的に取り組むことができるように指導することができたか。		各種資格取得・検定などを年度当初に明示し、資格取得に積極的にチャレンジできるように努力した。		A	各種資格の取得意義を広く生徒に伝えることが重要である。	
		授業の他に補習等を充実させ、生徒にとって満足いく成果が得られたか。		朝や放課後の補習等を実施し、生徒の資格取得を最大限のサポートをすることができた。		A	授業や補習等で使用する機材の老朽化や材料費等に再考の余地がある。	
	学習意欲の向上	生徒の学習意欲を向上させるため、校外実習や外部講師による授業など、多角的に理解が深まるように工夫し、実践することができたか。		校外実習や外部講師の活用、またICTの活用機会を増やすことにより、生徒の理解状況に合わせた授業を実践することができた。		A	物価の高騰により、校外実習費用、外部講師の確保など、更なる工夫が必要である。	
生徒にとって分かりやすい授業を実践することができたか。また、理解できない生徒に対して個別の支援がしつかりできたか。		ICTが導入され、生徒個々に機器を持たせることにより、新しい授業スタイルを展開できるようになった。ICT利用促進委員会との連携がさらに必要である。		B	個別の支援にはICT機器の充実が最優先事項であるが、ICT利用促進委員会と連携を密にし、向上策を講じる必要がある。			
進路指導	進路実現	生徒の適性や学力を的確に把握し、進路指導に役立てられたか。		4月末に進路希望調査を実施し、就職希望者には6月より個別面談を行い、生徒の希望や適性を把握して職業選択に反映させた。		A	生徒の進路に対する意識を高めるためのキャリア教育を充実させ、将来のビジョンに向かって進路選択ができるように、引き続き指導していく。	
		キャリア教育を実践し、進路選択の可能性を広げることができたか。		夏季および春季インターンシップ、各種企業説明会、進路相談会やオープンキャンパス、進学説明会への参加を積極的に呼びかけた。特に校内企業説明会では2年生全員を参加対象とし実施し、進学希望生徒からも大変好評であった。		A	インターンシップについては、本年度も1,2年生を対象とし年2回(7月、3月)実施することができ、体験の機会を増やすことができた。校内企業説明会では来年度も2年生全員を対象として実施する。	
		保護者との連携を密にして指導を行うことができたか。		PTA総会及び各学年PTAにおいて、保護者への進路説明会を実施し、昨年度の進路動向を説明するとともに、進路活動への理解と協力を求めた。		A	総会や学年PTAでは十分な時間を取り、進路に関するガイダンスを実施できた。来年度も進路係と担任との連携を深め、保護者への情報提供をさらに充実させていく。	
		進路実現のために基礎学力の向上を関連部署と連携して推進できたか。		地元大学と連携し、学校説明会(受験対策)を開催。また、必要な模試などの情報提供と受験案内を行った。医療看護系希望者に対しては過去問題を利用した受験対策を行った。また関係部署で出題教科の補習や作文指導を粘り強く実施した結果、公立大学に5名合格することができた。		A	進学では総合型や学校推薦型選抜に対応し、基礎学力の向上と作文対策に努め、一般受験、大学入学共通テスト利用については、早期に計画的な学習指導をおこない、受験に備えることが必要である。以上、進路実現に向けて引き続き指導をおこなう。	
生徒指導	基本的生活習慣	頭髪などの身だしなみから生活習慣を見直し、社会で通用する基本的生活習慣とマナーの確立を図り、地域から信頼される千曲高生を目指す。		各定期考査の折指導を継続してきた。頭髪の染色・ピアス等の装飾品に対する指導に従わない生徒が出てきている。粘り強い指導を継続しているが、各専門科・各クラスで大変苦慮した。		B	長期休業明けなどは学科と連携し、指導の徹底をはかることを継続していきたい。	
		クラス・学年・学科の枠を超え、協力し合って指導することができたか。		学年・科の係がパイプ役となり、係会・学年会で情報共有し指導している。		A	学年所属係が中心となって、学年会での情報発信を積極的に行っていく。	
		良好な学習環境を守る意識を、生徒に考えさせることができたか。		生徒会と連携し千曲祭・あいさつ運動・通学安全指導を行った。校内巡視や週番活動を継続しながら学習環境を整える意識を高めていく。頭髪・喫煙等の自浄努力についての浸透はいまひとつ。		B	各係と連携を取りながら、被害を抑えていきたい。また啓発活動も引き続き行っていく。	
	安全安心な学校	校内情報の共有化により、職員一致による安全な学校作りをおこなう。また、交通事故防止に積極的に取り組む。		校内LANにより、自転車通学者・アルバイト許可者・自動車免許許可者が閲覧できるようにしている。各担任への注意喚起はその都度間髪をいれずに共有している。また緊急性、必要性のある場合には係がSHR時に放送を行った。		A	校内LANの活用を今後も積極的に続け、情報共有を促進させる。必要に応じて放送も入れていく。	
生徒会活動自主活動への支援		人権を尊重した取り組みを実践することができたか。		文化祭・体育祭・予餞会などの生徒会行事では、生徒一人一人が役割を持ち、運営を行った。他者と相談しながら準備を進める過程で、互いの意見を尊重し、多様な価値観を認め合いながら合意形成をする力を養った。		A	新生徒会についても、様々な学校行事の運営を通して、多様な価値観を認め合うような雰囲気醸成していく。	
		生徒会活動の中に地域連携をひとつの柱として捉え、生徒の自主性を育む。		生徒が自発的に考えた活動を可能な範囲で支援した。文化祭では、子供対象のスタンブラリーや災害義援金の募金など、地域社会に目を向けた企画を実施した。この災害義援金の募金活動が評価され、上田市より本校生徒会を表彰を受けた。		A	学校という特性上、生徒会役員は毎年総入れ替えとなる。継続して地域と連携した活動を行うためにも、引継ぎはより丁寧に行いたい。また、他校生徒会との連携した活動も引き続き検討していく。	
開かれた学校作り	公開授業等	春と秋の公開授業や行事をとおして、本校の活動を保護者に伝える。また、進路選択の参考となる情報を中学生およびその保護者に広く伝える。		体験入学では多くの中学生が参加し、進路選択に必要な情報を提供することができた。公開授業も、多くの中学生やその保護者が参加し授業や実習の様子を参観した。また、相談会を開催したところ複数の生徒や保護者からの相談があり、本校の特徴などを伝えることができた。しかし、懇談期間中の保護者向けの授業公開では参加者が少なかった。		B	保護者懇談会の案内には授業公開の実施について記載しているが、連絡網を使用して保護者への案内をするなど、情報提供を密にする必要がある。	
	広報活動の充実	本校の教育活動について広く理解を得るために、学校案内・Webページの更新を増やして充実させる。積極的に地域のイベントに参加して、本校の特色理解してもらう機会とする。また、報道機関へ情報提供を行い、各種メディアを利用して活動情報の発信を図る。		生徒の活躍や学習活動、行事などのメディアに取り上げられ、本校の特色を伝えることができた。保護者向けの匿名性を担保した学校評価において、学校のことがわからないので評価できないとの記述が散見されるので対策が必要である。		B	授業や各種行事、部活動など学校内の生徒の様子や、活動状況を各担当との連携を密にして情報を発信する必要がある。そのために、Webページや緊急連絡網を活用した効率的な情報提供の手段と、発信する情報の充実を図る必要がある。	
	PTA活動	諸々の課題を保護者・職員で共有すると共に、高校生活が有意義になるよう連絡を密にする。家庭への連絡を密にするため、メール連絡網システム(きずなネット)の登録数増を図り、折に触れ情報発信を心がける。		諸々の課題を保護者・職員で共有すると共に、高校生活が有意義になるよう情報を共有し連絡を密にした。今年度は北信越大会が長野市で開催され、PTA役員皆様の協力があり、無事終了することができました。きずなネット学校連絡網は、学校から保護者に向けた連絡をスマートフォン・パソコンへ斉送信できる連絡網サービスで、利用活用できた。		A	昨年、今年は東信PTA副会長の責務でしたが、次年度は会長の任務にあたります。PTA役員と連絡を密にしながら、PTA組織をより実効性のあるものにしてしながら、業務の精選、適正化を図り、円滑に運営できる体制を検討していく。	